

庁内関係課ヒアリング 結果概要

公共交通に括らず全ての移動手段が適切に連携することで、限られる交通資源を最大限有効活用していくことを目的として、庁内関係課に対して施策の方向性について説明を行い、次年度以降の連携に関するヒアリングを実施した。参加した関係課から得られた意見は以下のとおり。

◆開催日時：令和6年12月17日（火）15時～

◆結果概要

担当課	施策に対する意見等
建設水道課	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランにおいて「公共交通連携拠点（JR只見線の駅前）」に対しては『バスの停留所や通勤通学で必要となる駐車場等の機能を有した3地域の玄関口として、各機能に連携を持たせた利便性の高い拠点の形成を図る』こととし、都市計画公園やポケットパーク等の整備も含め駅前スペースの活用の検討を進めてきたが「道路幅員の問題」や「既存の建築物との兼ね合い」もあり、検討内容を見直さなければいけないと考えている
健康ふくし課	<ul style="list-style-type: none"> 現在の通院支援サービスは社会福祉協議会に委託して「一般公共交通機関の利用が困難な方」を対象に運行している 地域のニーズとして「買物」があることは理解しているが、支援できる受け皿がないのが現状である そのような方々に課として「美里あいあいタクシー」の利用を提案してはいないが、各地域のケアマネージャーの判断により提案していただいている実態はある
産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> 財源確保策として「ふるさと納税の活用」があるが、基本的には利用者負担という認識で間違いないかということと、財源はこれ以外にもあるか確認したい これまでどおり利用者負担の考えは変わらない、ただ事業者に対する赤字補填が今後も大きくなることが想定されるため、少しでも財源を確保したいということと、目に付く機会を増やすことで住民意識の醸成も期待していると回答 スマホアプリで利用できる反面、1回の観光来訪でインストールしてまで使わない可能性も高いことから、観光分野での活用に向けて「美里あいあいタクシー」の利用を謳つておらず、利用したという声も聞いていない ただ「1日乗り放題券」があることで、複数の観光地を周る人にはお得に利用できることや「温泉などに行った際に飲酒もできる」といったメリットを伝えていくことが必要 イベントなどでも利用はできるかと思うが「利用者増加で乗り切れない」や「増便したのに利用者がいない」などの問題も想定される 人口が減少し、公共交通も縮小していくことも検討していかなければならぬ中で「山間部の移動手段が必要という人」は今後も生じるかと思うが、コンパクトシティの考え方にも合わせて検討してはいる 今後、検討が必要な事項であると認識しているが、交通事業者から伺っている経営状況を考慮するとなかなか難しい状況であると回答 移動手段がなければ他自治体の便利なところに転居する可能性があるかもしれない
生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 「公共交通を利用した講座等への参加を促す案内」は課からお知らせしている ただ、講座の開始・終了時間が決まっている一方で、相乗りで運行している「美里あいあいタクシー」は到着時間が読めないこともあります、参加者からは「利用したが遅れた」という声も受けており、結果的に参加者には「移動手段がない」と判断されている 現状は家族や友人による地域の助け合いで移動いただいているが、そもそも「使い方がわからない」という方も見受けられるので、丁寧な説明も必要と感じている
こども教育課	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟な運行ができることがスクールバスのメリットではあるが、費用面の負担も大きくなっているため、公共交通ができるだけ利用して通学できる方法を授業時間等も含め検討していきたい